

群馬ふるさとづくり賞 受賞団体決定

群馬県地域づくり協議会では、「群馬ふるさとづくり賞」を設け、活力ある地域づくりに取り組んでいる優れた団体等を顕彰しています。

本年度も、県内各地で地域づくり活動を行う団体から応募があり、「主体性」「地域性」「継続性」「先駆性」等を総合的に審査した結果、「みどり市観光ガイド」が群馬ふるさとづくり賞に、「シニアパトロールの会」「白井宿管理組合」が群馬ふるさとづくり奨励賞に輝きました。また、受賞団体については、(公財)あしたの日本を創る協会主催の「あしたのまち・くらしづくり活動賞」に推薦いたしました。

本賞は地域づくりへの活動の成果をアピールする良い機会となり、魅力ある地域づくりのさらなる進展を図る契機になることと思います。来年度もみなさんからのご応募をお待ちしております。



講評

読売新聞前橋支局 高野支局長

群馬ふるさとづくり賞を受賞された「みどり市観光ガイドの会」の皆さん、また、群馬ふるさとづくり奨励賞を受賞した「シニアパトロールの会」の皆さん、「白井宿管理組合」の皆さん、おめでとうございます。

「みどり市観光ガイドの会」の皆さんは、平成22年7月の発足以来、地元の豊かな自然や遺跡、文化などを、創意工夫を凝らした方法で紹介することで観光事業の振興を図り、ふるさとづくりに寄与されてきました。観光と言っても、単なる名所案内ではありません。国の登録有形文化財である旧花輪小学校記念館を活用し、「大人の学校ごっこ」として楽しめるカリキュラムを組んだ「渡良瀬物語」や、足尾銅山から江戸に銅を運んだ道筋をたどる「あかがね街道を歩こう」などさまざまです。平成26年度の参加者は2,590人を数え、通算ではすでに1万人を超えました。観光客だけではありません。みどり市は平成18年に笠懸町、大間々町、勢多郡東村が合併してできた県内12番目の市ですが、新たに自分たちの地域に加わった土地のことは意外に知らないものです。ツアーには、そういう方々も参加し、地元の再発見につながっています。

審査会は5月に行われましたが、審査委員からは「企画力・行動力・実績が見事。私自身が参加したいと心を動かされた」「郷土愛に根ざした積極的な取り組みで地域活性化に貢献している。活動に携わる人々の元気が地域を元気にしている」など、高く評価する声が聞かれました。今月で発足5年を迎えられましたが、これからも素晴らしい活動に期待したいと思います。

奨励賞の「シニアパトロールの会」の皆さんは、地域の防犯にシニアの経験を役立てようと、玉村町にある県立女子大と連携し、平成22年から週末の巡回や見回りを続けています。親元を離れて生活する女子学生と、その親御さんにとって、地域の安全・安心は切実な問題です。メンバーは3人一組で回り、その中に1人女性が混じるという配慮にも感心しました。審査委員からも「地元特有のニーズを踏まえて誕生した組織であり、大都市ではあまり聞いたことがない活動であることが評価できる」、また「地道に無理のない活動で継続している。互いのコミュニケーションと若者が地域の方々に守られているという安心感は、女子学生の群馬への愛着を育成するだろう」などと評価されました。今後も安全・安心なまちづくりに貢献していただきたいと思います。

「白井宿管理組合」の皆さんは、地区の集会所の囲炉裏端を活用し、都会の人々と交流しています。特に明治大学の学生との交流はユニークで、授業で訪れるようになった学生を民泊させたり、逆に大学に向かいシンポジウムに参加したりしています。審査委員からは「都会の大学生と地元の高齢者とのスムーズな交流は、聞いているだけでほのぼのした」「高齢社会で生活する人たちがすばらしく、はこものが有効に活用されている点も注目できる」との感想が出されました。

今回、審査を通して感じたのは、シニアの方々の活躍ぶりです。

「みどり市観光ガイドの会」も、ご年配の方が積極的にガイドとして協力していますし、「シニアパトロールの会」「白井宿管理組合」はシニア世代と孫世代が交流する活動でした。高齢化・人口減少社会が進む中、地方創生の必要性が盛んに言われますが、その先駆的な活動として注目し、感銘を受けた次第です。皆さまの活動を、さらに発展させていただきたいと思います。

皆さま、誠におめでとうございます。

